こんにちは、日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会☎ 371-9164 自宅☎（FAX 兼用）６９１－３３２３
日本共産党京都市会議員団 ☎２２２－３７２８ FAX 211-2130 '16 年２月 14 日号
市会議員団ホームページ http://web.kyoto-inet.or.jp/org/cpgkyoto/ E-mail cpgkyoto@mbox.kyoto-inet.or.jp

「今年九月の有料化はしない」
敬老乗車証について、市が打ち出す
＝運動と本田政策の成果

市長選最終盤の２月３日、突然、市のホームページ（パソコンの画面で発信）に、「今年九月の更新時に、敬老乗車証の見直し（有料化）は予定しておりません」との内容の記事が載りました。少なくとも、来年の九月までの改悪具体化はストップさせることができたという意味で、この間の世論と運動、また本田さんの政策が、事実上、市政を動かした成果と言えるでしょう。

但し、この問題は市長選の政策論争の重要テーマのひとつでもありましたので、経過を振り返ってみます。

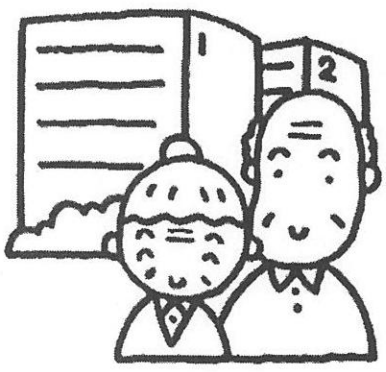
◎１月末頃から、現職市長陣営が「敬老乗車証について、共産党が値上げ・有料化等と言っているのは事実と違う」などの趣旨のことを言い出す。

◎共産党と本田陣営は、「すでに２年前、市は『乗るたびに有料化』方針を打ち出しており、一回百円との神戸市の例も紹介している」と反論。

◎６日、現職陣営が「『今年９月から百円』とウソのビラをまいている人たちに市政は任せられません。言語道断」と新聞広告。

◎しかし共産党のビラは９月「以降」…百円「程度」と、既定の市の方針を紹介しただけのもの。今回の市のホームページでも、「利用ごとに相応の負担をお願いする…仕組みへの検討をすすめている」と書いている通りです。それがいつになるかは、具体化を狙う市と、これに反対する市民世論との、たたかいの渦中にあったというのがことの経過です。それについて、今回、市が「今年九月は具体化しない」と、あらたに発表したというわけです。

◎九月実施を断念し実施時期を先送りしたことを逆手にとって相手陣営を非難する、また有料化方針そのものは全く撤回していないのに、新聞に「ウソ」などと書くのは、それこそ言語道断だと言わなければなりません。



本田久美子さん、ごくろうさまでした

７日投票の市長選では、多くの市民団体の皆さんとともに日本共産党も推薦した本田久美子さんが健闘、敗れたとはいえ、本田さんの政策が、市政を動かす力になりました。敬老乗車証の改悪ストップ、また本田政策「子ども未来局の設置」は現市政をして「子ども育み局の設置」と言わしめました。本田「中小企業振興条例」→「条例を含む中小企業振興策」、本田「国保料引き下げ」→市において、来年度の国保料は据え置き（詳細次号にて）、等々の成果がすでに生まれています。

運動的には、無党派の市民の皆さんと日本共産党が力を合わせて暮らしと政治を変えようという流れが大きく広がったことが特徴でした。ご支援頂きました皆さん、本当にありがとうございました（写真は、８日、報告集会にて）。

最近の相談から

◎生活保護を受けている人たちの住宅扶助が、政府と市長によって値下げされたことも含め、転居先を探しておられる方が増えています。井上議員も、必死に物件を探したり引っ越しのお手伝い。

◎エレベーターのない市営住宅の５階に在住。膝の手術で医者から「階段は厳禁」。市は「空き部屋はたくさんあるが、その団地の１階への住み替えはできない」と冷たい返事。必死に探してUR住宅が見つかり、無事転居。

井上議員が再三要求していた高倉通跨線橋の欄干の整備が実現